レールのない途

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9165

レールのない途

Missing Railroad

金沢大学医学部小児科学
谷口　昂

構造的不況に悩まされ，超高齢者社会への突入を目前に控え，世界一優秀との評価の高いわが国の官僚機構もこれに対処しきれないのみか，官僚機構そのものに内在するさまざまな矛盾が噴き出している．ヨーロッパ諸国では数百年かかってゆるやかに到達した高齢者社会を，せいぜい三十年たらずで達成したわが国ではさまざまな歪が生ずるのも止むを得ないのかもしれない．お手本－既存のレールーがあり，しゃにむに働き追い付くことで歴史にも珍しい急成長を遂げたのである．そのためには先進国に学び，効率よく真似ることが必要であった．知識の習得と応用がなにより優先され，教育とは知識の習得，すなわち，記憶の量と質をふやすこと，試験とは記憶の量と質を競うことになってしまった．

A日程・前期試験の日，角間キャンパスでみかける受験生，遅刻しそうな人は別として，足早に歩く受験生は少ないようだ．「せっかく覚えたことを忘れてなるものか」という緊張感と「セカセカと歩くと頭のなかにつまった知識がポロポロと失われる」ような強迫感からか，ゆっくりとした歩き方である．ふり返って見ると小学校以来，ものを覚えることと忘れないことに明け暮れてきたような気がしないでもない．せっかく都合よく忘れたころに，思い出してみろと試験がある．なるべく原型に近い形で思い出す必要があるので，直前の一夜漬けが最も効果的なのは皆さんもよくご承知であろう．学校の期末テストなどであればそれで済むが，入学試験ともなると一夜漬けというわけにはいかない．忘却恐怖ともいうべき第二の天性が身についてしまう．少なくとも国立大学医学部では，すべてに近い科目で水準以上の成績をとらねば入学は難しい．いったい物理もでき国語もできる，さらに，数学も英語もできる能力とは何だろう．頭の中に知識がすき間なく詰まり，流れのない状態とでも形容する以外にないように思える．上水道完備，下水道未発達とでもいえようか．流出路の不完全なダムは，しばしば大きな災害をもたらす．

「知識を得る」とか「○○○○の知識」といわれるように，知識はすでにインプットされたプログラムを理解し，分類し，実行に移す能力である．お手本があり，レールがすでに引かれている場合には，無駄なく威力を発揮する．しかし，知識から知恵は生まれないが，知恵は知識を生かして使う．知識は没個性的であり，知恵には「知恵を出す」や「長老の知恵」といわれるような個性的な面が強い．新しいことを目指して仮設をたて検証する，いってみれば，レールのとだえたところから出発するプロセスこそが知恵の出番である．しかし現実は厳しい．与えられた解答のある問題を解くのに十分以内だったか，三時間かかったという能力差はあまり問題にならない．過去の研究の咀嚼にもとずく直感ともいえる選択の知恵，持続に耐える強い好奇心が必要とされる．どんな小さなことでもいい，人のやっていないことにこだわり続け，壁を超え姿がおぼろげながらもみえてきたときの感動が研究のエネルギーを生み出す．生みの苦しみ，育ての悩み，子育てにつきもののもろもろの問題は研究の面でも付きまとう．第一の創造ともいえる，生みの苦しみは恵まれた資質のある人にしかおとずれないにしても，第二の創造とでもいおうか，育ての悩みはかなりの共通性をもって多くの人々におとずれるはずである．日本人は育ての名人という説もある．故寺田寅彦先生の有名な指摘「学者は馬鹿でなければならない」にも通ずる，一見，泥臭くみえるこだわりと率直な感動にこそ研究の原点があるように思える．数学ですら暗記科目と位置付け，無駄なく覚えることに馴染み過ぎ，愚直ともみえるこだわりと感動に無関心になりつつあるかにみえる偏差値秀才の心の火を，どこまでかきたてることができるかに大学の将来がかかっている．

金沢大学を去るにあたり，こしかたの路線を懐かしみ，若い先生方の将来の発展を夢見て，あえて‘レールのない途 (Missing Railroad)’と題した．